

2-1 大学入学時の気持ち

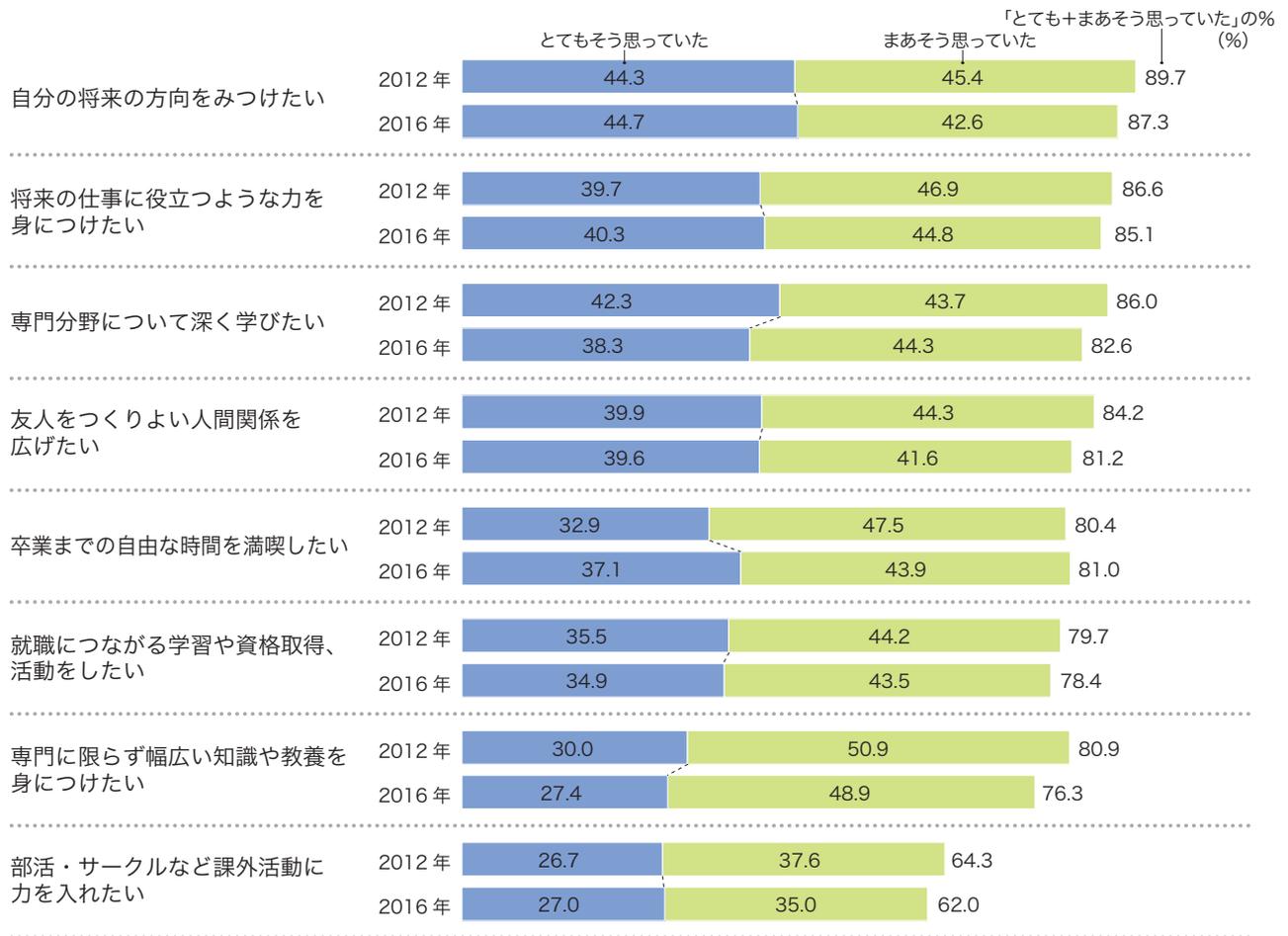
大学の教育内容に対する期待は、約8割と高い。

大学入学時に期待していたことをみると、4年間で大きな変化はなく、どの項目も総じて高い。「自分の将来の方向をみつけない」、「将来の仕事に役立つような力を身につけたい」といった将来へのつながり、「専門分野について深く学びたい」といった深い学びへの期待が大きく、大学の正課内の教育に対して十分な期待をもって入学している。また、学生の行動タイプをみると、「自分から積極的にやりたいことを探してやる」を選択した学生が、入学時31.8%から現在(回答時)37.4%に増加している。大学生活を通して、学生の積極性が培われているようだ。

Q

あなたが大学に入学したとき、次のようなことをどのくらい思っていましたか。

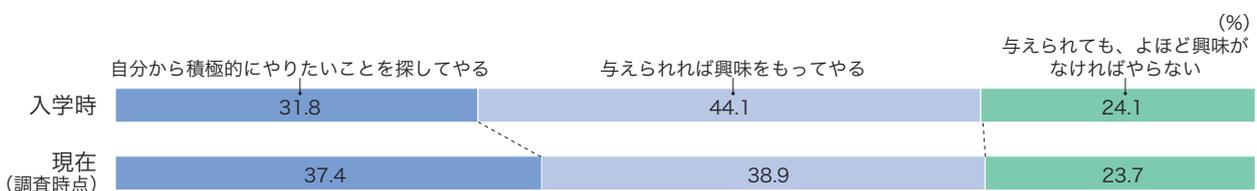
図2-1 大学入学時の気持ち



Q

大学入学時と現在のあなたの行動タイプにあてはまるものを、直感的にお選びください。(2016年)

図2-2 行動タイプ



2-2 力を入れたこと・経済環境

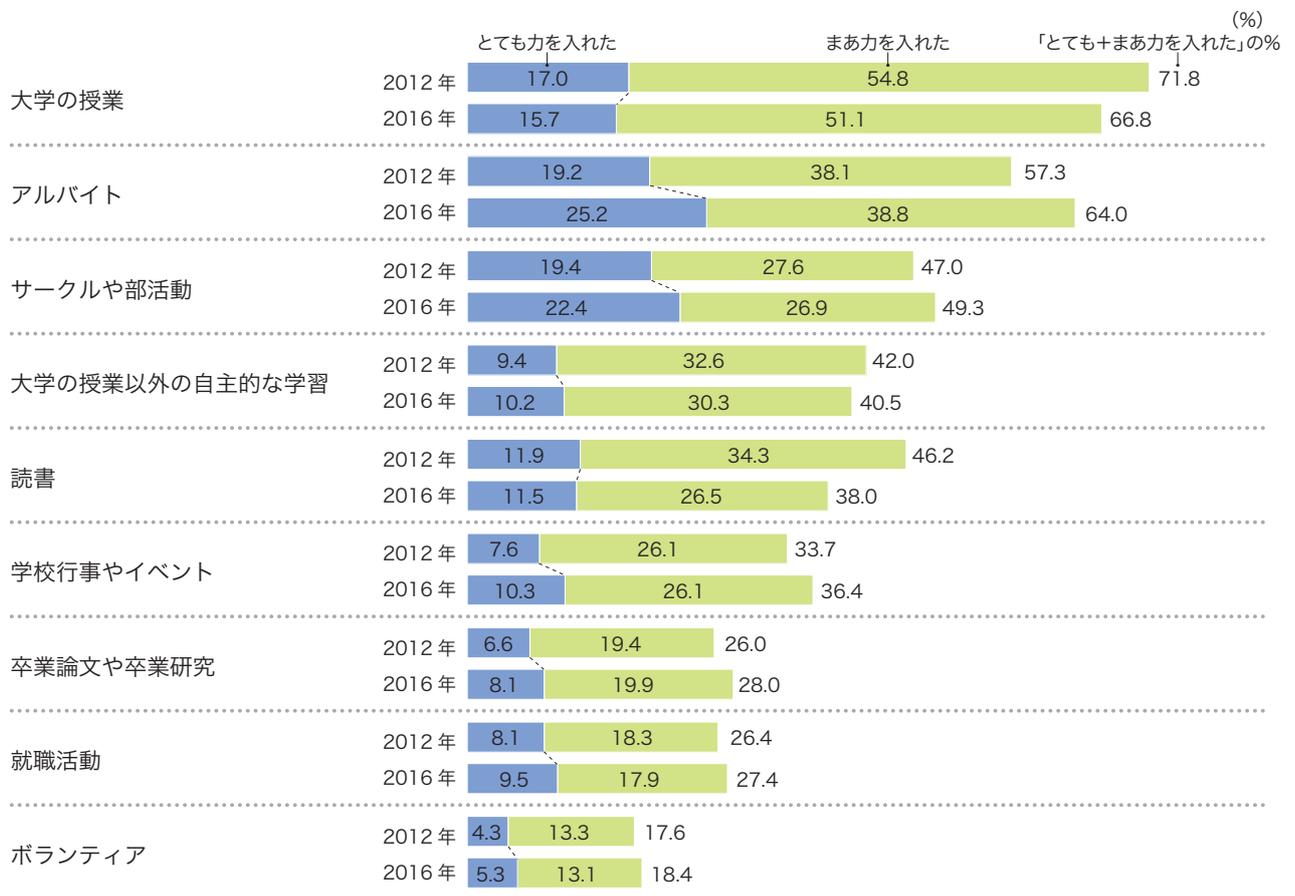
保護者からの収入が減り、アルバイトに力を入れる学生が増加。

学生生活のなかで力を入れていること(とても+まあ力を入れた)をみると、この4年間で「大学の授業」が5.0ポイント減少し、「アルバイト」が6.7ポイント増加している。そこで、学生の経済状況をみてみると、「保護者などから」の収入が減少傾向にあり、「アルバイト」での収入が増加している。経済的な事由から、学生がアルバイトを増やさざるを得ない状況にあることがうかがえる。また、「読書」に力を入れる学生の割合は、この4年間で8.2ポイント減少しており、大学生の読書離れが進行している。

Q

あなたは次の項目について、これまでの大学生活の中で、どのくらい力を入れてきましたか。

図2-3 力を入れたこと

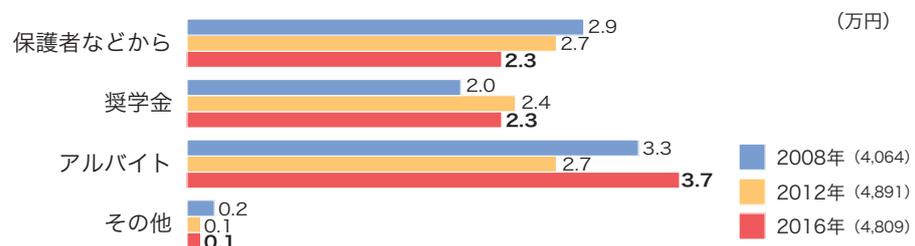


Q

あなたの1か月の収入をお答えください。

※1万円単位でお答えください。

図2-4 経済状況



注) 2016年のみ、「奨学金」の金額を「返済義務あり」と「返済義務なし」にわけてたずねた。合算した結果の平均値を他年度と比較する。

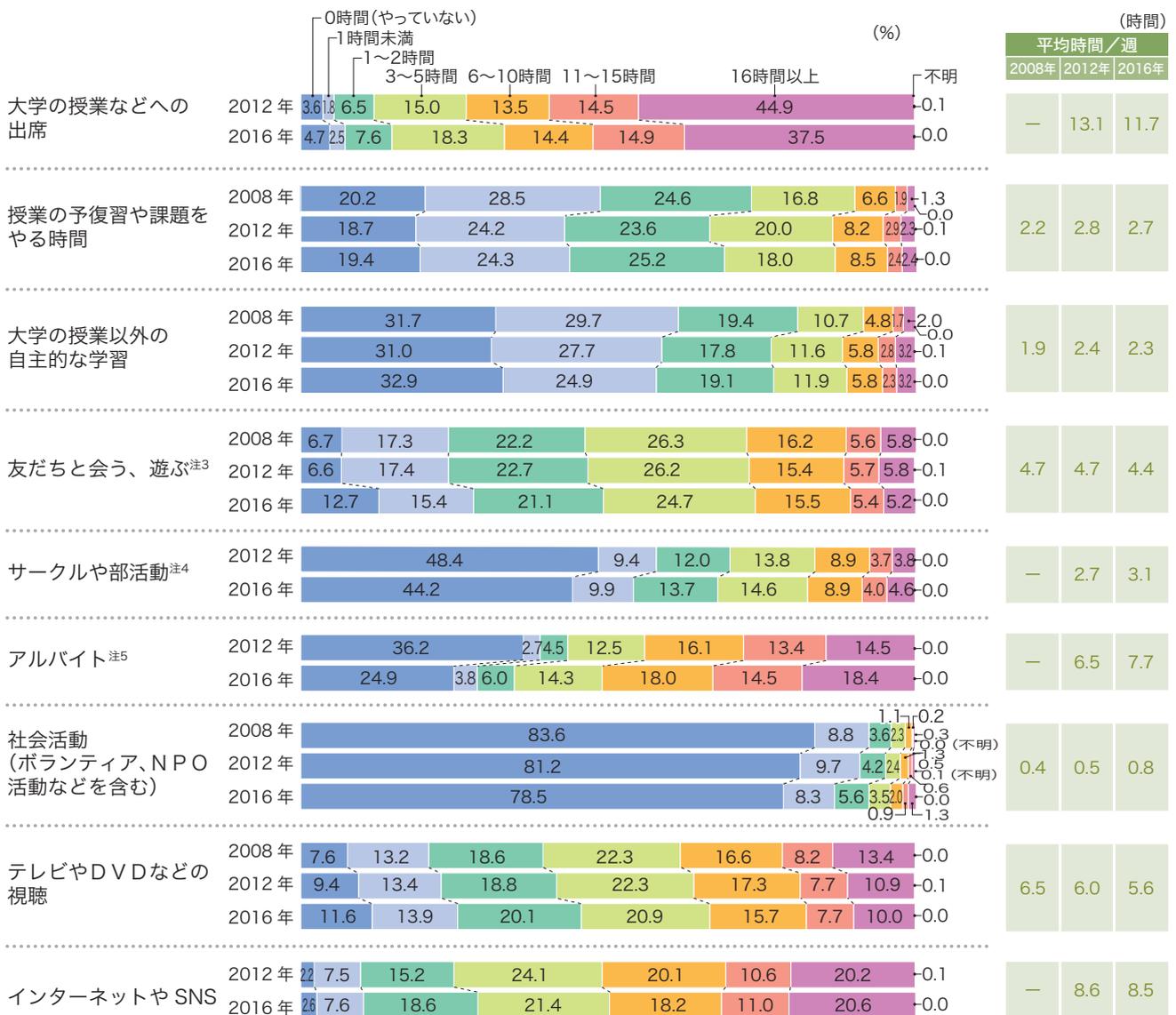
2-3 生活時間

授業の予復習や自主的に学習する時間は、4年間で変化はない。

学習やその他活動にかかる1週間あたりの時間をみると、授業の予復習や自主的に学習する時間が、2008年から2012年にかけての4年間には増加がみられたが、2016年までの4年間では変化はなかった。平均時間が多いものから順にみると、「大学の授業などへの出席」に次いで「インターネットやSNS」が週当たり平均8.5時間となっている。また「アルバイト」時間が、この4年間で週当たり平均1.2時間増加している。

Q ふだんの時間の過ごし方について、次の項目は1週間（月曜日～日曜日）で何時間くらいになりますか。今学期の平均的な1週間を振り返って、それぞれについてあてはまるもの1つをお選びください。

図2-5 1週間あたりの学習・生活時間(経年比較)



注1)「16～20時間」、「21時間以上」を「16時間以上」とまとめて表示。

注2) 平均時間について、「0時間(やっていない)」を「0時間」、「1時間未満」を「30分」、「1～2時間」、「3～5時間」、「6～10時間」、「11～15時間」、「16～20時間」については中央値を、「21時間以上」を「23時間」と置き換えて算出した。「不明」は集計から除く。

注3) 2008年、2012年は、「友だちつきあい」とたずねた項目と比較した。

注4) 2012年調査では、別設問で「サークルや部活動をしていない」と回答した2,101名を、本設問の回答対象者としなかった。第3回と比較するにあたり、「サークルや部活動をしていない」と回答した2,101名を「0時間(やっていない)」とみなし再集計した。

注5) 2012年調査では、別設問で「アルバイトをしていない」と回答した1,776名は、本設問の回答対象者としなかった。第3回と比較するにあたり、「アルバイトをしていない」と回答した1,776名を「0時間(やっていない)」とみなし再集計した。

注6) 全11項目のうち、他年度と比較可能な9項目を抜粋して表示。

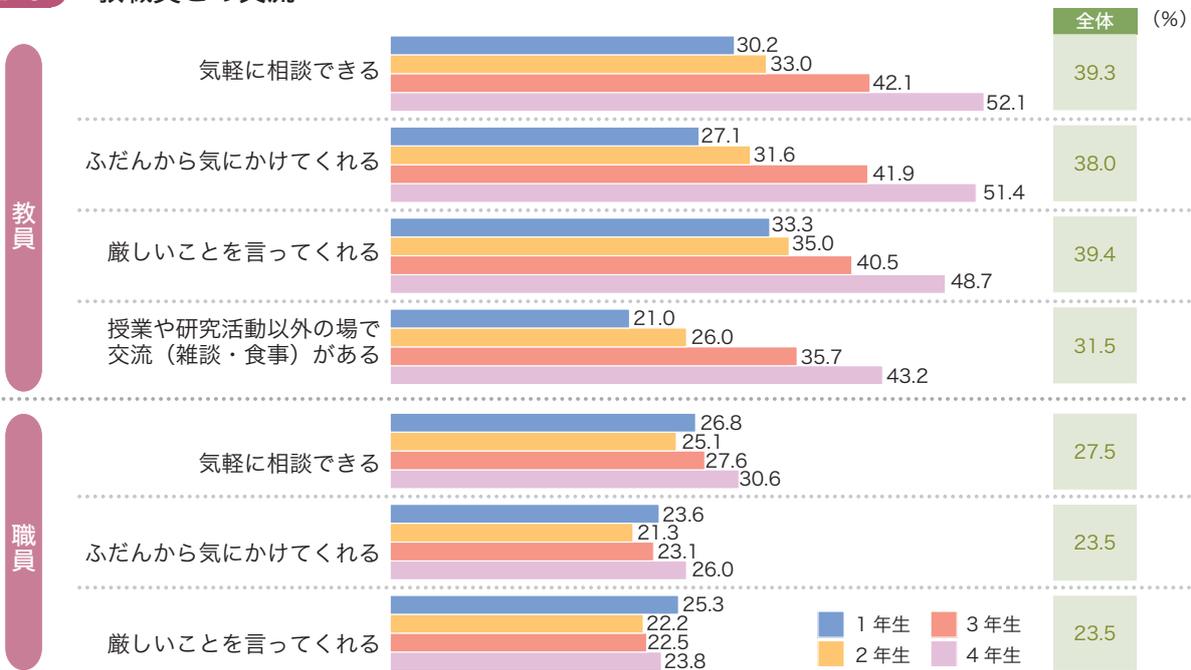
2-4 教職員との交流・保護者との関係

「困ったことがあると、保護者が助けてくれる」と考える学生が増加。

教員との交流をみると、いずれの項目も学年が進むにつれ増加している。とくに3・4年生での増加率が大きく、専門教育が始まりゼミや研究室に所属することで、教員との距離が縮まることがわかる。職員との交流は学年による差はなく、約2～3割にとどまる。保護者との関係をみると、「保護者のアドバイスや意見に従うことが多い」、「困ったことがあると、保護者が助けてくれる」と考える学生は8年間で増加している。よき相談相手であり頼れる存在として、保護者の役割が大きくなっているようだ。

Q あなたの周囲に、次にあげるような大学の職員や教員はいますか。(2016年)

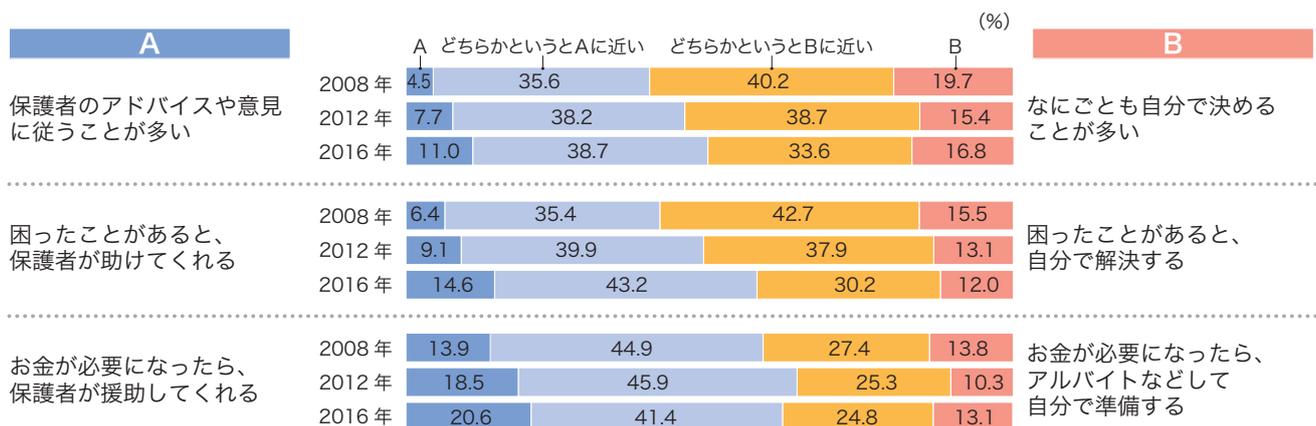
図2-6 教職員との交流



注) 「いる」の%。

Q あなたと保護者との関係について、それぞれについてもっとも近いもの1つをお選びください。

図2-7 保護者との関係



注) 全8項目のうち、3項目を抜粋して表示。

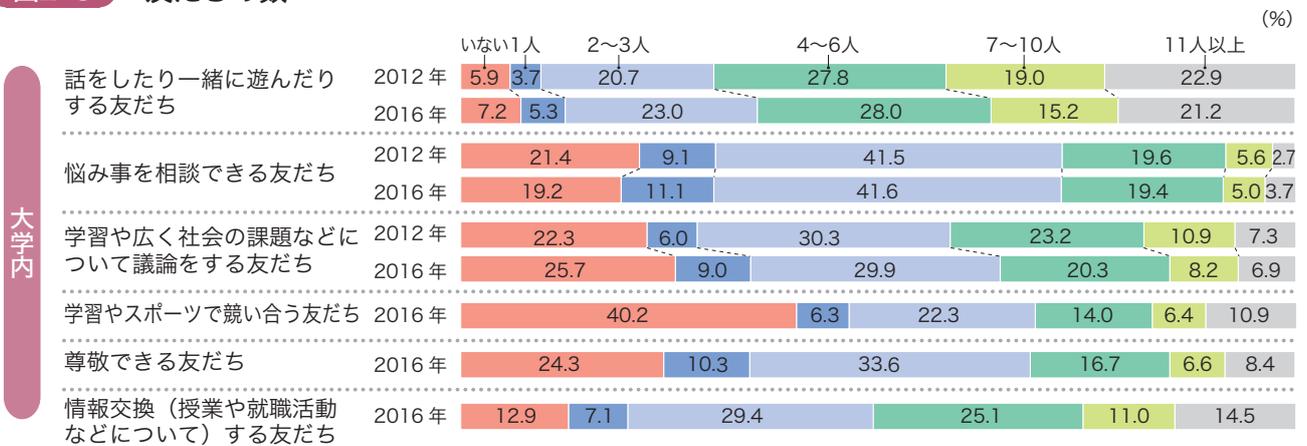
2-5 友だち関係

友だちと話が合わないと不安を感じる学生が増加。

大学内での友だちの数をみると、2016年のみの項目であるが「情報交換する友だち」が「いない」と回答した学生が12.9%存在する。半数以上の学生は「4人以上いる」と回答しており、学生間での情報量の差が案じられる結果となった。友だちとの付き合い方では、「1人で行動しても気にならない(とても+まああてはまる)」と回答した学生は4年前と変わらず約8割存在するが、「友だちと話が合わないと不安を感じる(同)」は4年前より14.9ポイント増加している。

Q 次のようなことをする友だちは全部で何人くらいいますか。

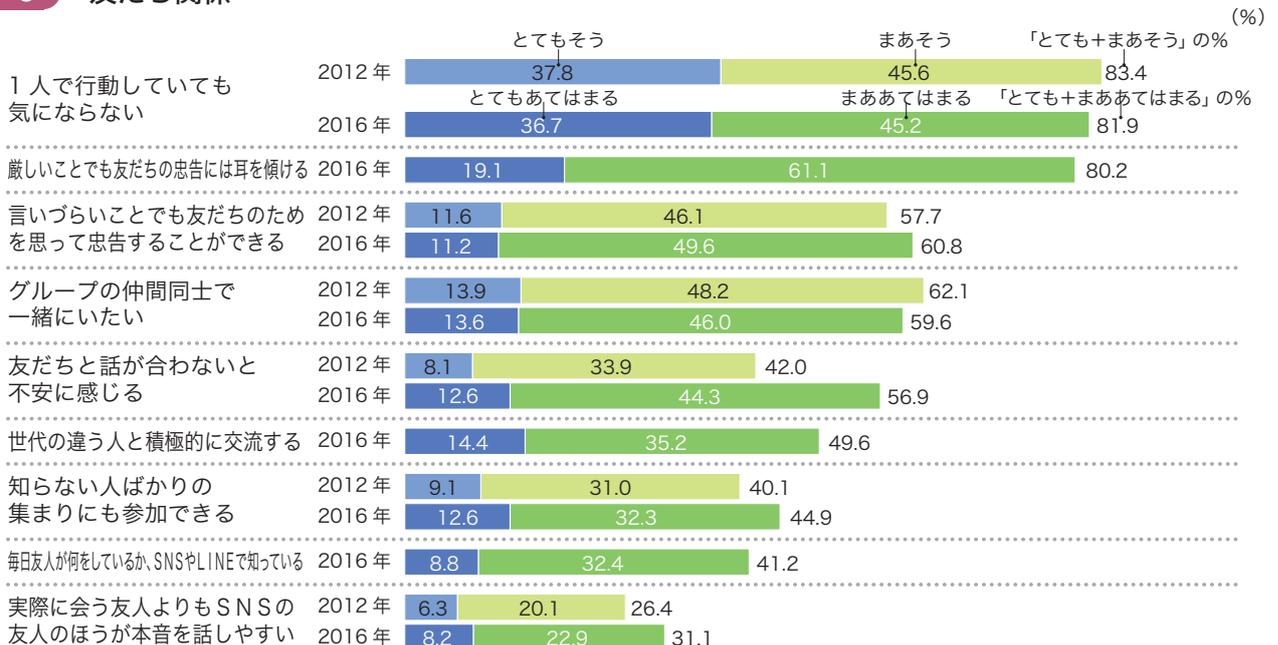
図2-8 友だちの数



注) 2012年は、「11~15人」、「16人以上」とわけてたずねた結果を「11人以上」に合算した。

Q 人との付き合い・交流について、次のようなことはどのくらいありますか。

図2-9 友だち関係



注) 2012年の「とてもそう」、「まあそう」の回答と、2016年の選択肢「とてもあてあまる」、「まああてあまる」の回答を比較した。